2017／3／25
発題：仁保宣夫

日本人と英語

1. 日本人にとって英語とは
   ① 日本人と英語との関りは
      - 日米和親条約（1854）以降。明治政府が英語教育を開始。欧米との戦争中、敵性言語として排斥。戦後は“アメリカ英語”を中心に英語教育が実施される。
      - 東京オリンピック、アポロ月面着陸と同時通訳、大阪万博などのイベントなどを通じ、英語が国民に浸透した。
   ② 英語格差の存在
      - 入学試験、入社試験など人生の岐路において、英語能力の有無が合否や採用に影響。
   ③ 十年間も学校で英語教育を受けてもなぜ話せないのか？
      - 英語習得は日本人にとり、ハードルが高い。文化、国民性などの壁の存在。
      - 日常的に使用する機会がほぼない。（教室の疑似体験のみ）
2. 日本の英語教育の実情
   ① 学習指導要領と教育目的
      - グローバル化の中で、次世代をになう子供たちの英語によるコミュニケーション能力を養う。
      - 高校卒業段階での達成目標は国際水準(例えば*CEFR の B1-B2 レベル)とする。
      - 中学・高校における授業時間は、800時間程度、大学卒業までの通算でも 1000-1200 時間。
      - 子供は 3 歳半までに自国語と接触する時間は最低 3,000 時間と推定される。
      - 2020年度より小学校の英語を 5 年 6 年生の必修科目とする。
   ② 学校教育現場の実態
      - 専門的な指導者の絶対数の不足(中学・高校)。今後、小学校の指導教員の確保。ネイティブや外国語講師、外国語指導助手、地域人材の活用の方策を講ずる。
      - 中・高の英語教員の50％が英検準 1 級程度の実力。

*CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠：7 段階中下から 4-5 段階目→英検 2 級－準 1 級)

3. ビジネスと英語
   ① ビジネス上の必要性
      - 経済のグローバル化とともに、共通言語として英語は、死活的に重要になってきた。
   ② 企業が求める英語力
      - かつては、自社で養成（留学、通学費用補助、資格取得奨励）、現在は、即戦力を求める傾向にあり、一定の英語の資格を求められるケースもある。
      - 企業の求める人材として、異文化適応力やバランスの取れた英語 4 機能（読み，書き，話し、聴く）の力量を有す。

4. 討議テーマ
   ① なぜ日本人は英語が苦手なのか？
   ② 小学校からの英語教育は必要か？
   ③ ビジネスが求める英語力は？
   ④ 英語の正しい学び方は（経験談）？

以上